

防災だより

平成31年1月号

平成31年1月15日発行
愛知県立岡崎北高等学校
総務部編集

☆今回のテーマ 当たり前の生活に感謝しよう

東日本大震災からもうすぐ8年が経とうとしています。つい先日も熊本で震度6弱の大きな地震がありました。当たり前に送っていた生活が一瞬で変わることもあります。

3年生諸君、いよいよ勝負の時です。緊張や不安もあることでしょう。楽しいこともあれば、苦しいこともあったでしょう。いや、むしろ苦しいことの方が多かったでしょう。だからこそ、当たり前のこと、日常の些細なことや平凡なことが楽しい、幸せだと感じなければいけません。保護者の方に感謝し、**挑戦できるステージに自分が立てることを**有り難いと思ってください。

改めて、下に東日本大震災後に宮城県の高校生が書いた文章を載せます。

何かを感じ取ってくれたら幸いです。

『厳しい現実と向き合う』

宮城県 高校生

多くの友達、そして多くの先生が家族や家を失った。

避難所からの登校にバスで2時間以上かかる友達もたくさんいる。

そもそも教科書、辞書、問題集もない。

こんな時に勉強など始めていいのだろうか？

しかし、高校生として当たり前の時間を過ごすことで、疲れた心を癒したい。

部活動もそのひとつだ。

スポーツなどで思いっきり体を動かして、エネルギーを発散させることで、以前の生活に戻るきっかけになるような気がする。

今ほど高校生にとっての文武両道の大切さを実感したことはない。

高校生として当たり前の時間を過ごしたい。

ライバルは全国の受験生であり、既に大きくリードされていることは理解している。

ゼロではなく、マイナスからのスタートだが、それでも夢をあきらめたくない。

「震災があったから夢がかなわなかった」とは言いたくない。

頑張れ 受験生！

頑張れ 北高生！！